

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100832		
法人名	特定非営利活動法人 友愛ホーム		
事業所名	グループホーム手鞠		
所在地	静岡県沼津市西島町8番25号		
自己評価作成日	平成26年10月8日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://x.php?acti%20on%20kouhyou%20detail%202013%20022%20kani%3Dtrue&amp;Ji%20gyosyoCd%3D227">x.php?acti on kouhyou detail 2013 022 kani=true&amp;Ji gyosyoCd=227</a>
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 しずおか創造ネット		
所在地	静岡県静岡市葵区千代田3丁目11番43-6号		
訪問調査日	平成26年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は手を出さず、利用者様が出来る事はご自分でやっていただいています。食事の準備や洗濯物干し、たみ等当たり前の日常の家事もご自分の役割として意志をもってやっていただいています。職員は出来ないところを支援しています。また、それぞれの利用者様のご希望に少しでも添うように外食やお買い物・お花見などに出掛けています。地域の行事やイベントにも参加させていただいています。地域の方もホームの行事に参加してくださいました。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設は3階建ての2階部分をグループホームとして運営されています。1階は通所介護事業所、3階は有料老人ホームを運営され、行事やレクリエーションを一緒に行われる事もあります。ご利用者は1日ホールに集まり談笑をされており、居室に戻られる方が見られません。ホールで過ごすことを強いている様子はなく、ホールが楽しい日常の居場所となる様に職員が配慮されている様子が確認できました。また、地域に向けての広報誌の発行や配布、施設のイベントに地域の方が参加するなど積極的に地域の方との交流を図られています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	認め合い、支え合い、感謝と笑顔を理念とし、実践に取り組んでいる。	左記の理念を法人理念とし、日頃から理念を唱和し意識化しています。認知症の方を介護する施設の性格上、ご利用者の安心に繋がる笑顔が重要と考えられています。日々の介護で笑顔が少ない職員に対して、個別に指導を行うことで理念の実践を進められています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事の情報を常に確認し、出来るだけ参加・協力している。 ホームの行事については地域の方々を招待しています。	地域で行うカラオケやお祭りへの参加、施設スペースを地域の写真展開催のために開放、流しソーメンなどの施設行事に地域の方が参加するなど、双方向での交流や運営推進会議では近隣の方が数名出席されるなど、積極的なお付き合いが確認できました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議に町内の組長や近所の方々に出席いただき相談を受けたり相談をしたりしています。また、写真展を行い地域の方々に見ていただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議でのいろいろな意見に対してホームの改善やケア改善につながるようスタッフ間で意見交換をしている。また、意見箱を玄関に設置して意見をいただくようにしている。	地域の方に参加を積極的に参加の声掛けをされることで、数名の参加があります。会議の参加により施設の理解が深まるきっかけ作りになるように意識されています。会議では事業所の経過報告や運営上の問題を話す過程で介護保険制度の啓蒙の役割も果たしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当職員に運営推進会議に出席していただいている。また、書類等は管理者が直接届けるようにし、担当職員とかかわるようにしている。	申請上の疑問点などは直接市の担当者へ問い合わせを行うことがありますが、日常的には直接書類を届けるなどを行っている地域包括支援センターと連携を行うことが多いようです。連携の中で施設勉強会の講師を依頼することもあります。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為の項目を貼り、日々の起きた事例や日々の小さなことにも目を向け、その都度、指摘し、対応の確認をしている。	身体拘束となる項目を記入した書面を事務所に張り出し、行ってはいけないことを意識化されています。玄関などの施錠も行っていない。徘徊や帰宅願望のケースには職員がご利用者と一緒に散歩を行うことで気持ちの納得を得られています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内外において研修を行っている。職員の不満やストレスをためないよう、理事長と話し合いの機会をつくっている。月に1度のミーティングにおいて、利用者様からの意見を聞き、権利を守る為の話し合いをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去入居者に実子がない為、成年後見人制度を活用したことがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には家族に十分説明を行っている。不明な点はないかお聞きし安心・納得していただけるまで説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の折に意見を伺っている。面会時には必ずお声を掛けさせていただき近況報告をし、意見をいただいている。玄関には意見箱を設置し、施設運営やケアに役立っている。	運営推進会議の他に、ご家族の面会時に聞き取りをされています。聞き取りを行う方は管理者や計画作成担当者など決まった職員が行っています。また月に一回行う職員ミーティングに全てのご利用者が参加することで個別意見の聞き取りを行い、行事の企画などに反映されています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングにおいて、スタッフからの意見を聞き、皆で話し合っている。管理者は現場の関わり、職員との意見支援の場を作っている。	ミーティングの他に、月に1回職員と個別面接を行い意見を聞き取る機会を設けられています。また日々職員との交流の中で意見の聞き取りをされています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月1回のミーティングは理事も参加しており、現場の意見を聞く機会を作っている。給与・賞与の明細は直接理事から受け取るようになっており、話しの場を設けている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の情報を提供し、参加をすすめている。研修担当者がおり、月1回のペースで施設内研修を行っている。資格取得にも積極的に取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修の機会などを通じて、他の施設のスタッフとの交流・意見交換している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居する前にご本人様とご家族様と面会し、総合的な情報を得ることで入所後の不安をなるべく解消できるように努めている。ご本人様のご納得するまで話しを聞く。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族様と面会し、状況や不安な点等細かなところまで情報を得るように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前にご本人様・ご家族様と面会し細かなところまでの情報を得て、またご希望を伺いながら、それももとにスタッフ間で意見交換し、サービスの見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	業務優先ではなく、何をすることも利用者様と共にいき、同じ時間を過ごすよう努めている。また、ミーティングにも参加していただき、意見を聞いたり昔話を聞いたりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様の状況変化等は、すぐにご家族様に報告説明し、問題を共有することにより共に支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	住み慣れた場所や生まれ育って過ごされた思い出の場所の話しを伺ったり、場合によってはその場所を訪ねる機会を作っている。	ご利用者とそのご家族との普段の関わりの中から入所前の生活を聞き取ることで個別対応のヒントを得られています。またセンター方式を利用し情報の共有をされています。これにより入所前に通っていた囲碁教室に継続して通うなど馴染の生活の継続が可能となった例があります。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホールでの自席の配置に配慮したり、折り紙や台所等を一緒にやりましょうと声を掛け関わり合うよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	移転先に、時には利用者様と一緒に訪問したり、ご家族様に近況を電話にて聞かせていただく機会をもうけている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの生活歴を大事にし、ご本人様のご希望を伺い、それに沿ったケアが行えるように努めている。	職員会議やご利用者との普段からの関わりの中からご希望を把握し、施設の行事に反映されています。行事やプログラムへの参加はご希望を優先し、無理強いをしないように心掛けています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	それぞれの生活歴を大切に、ご本人様・ご家族様の情報を通じて把握すると共に実践・持続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1人ひとりを観察し、わずかな変化にも気づくよう努めている。職員間の申し送りにより情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回のミーティングにおいて、ご本人様・ご家族様の思い・意見について話し合い、介護計画に取り組んでいる。	月1回開催する職員やご利用者が集まるミーティングをモニタリングの機会とし、ご利用者の様子や職員の対応を集約し検討します。介護計画の周知徹底や評価もミーティングにて行います。一連のプロセスを皆の前で行うことでご利用者の相互理解や自らの大切な事を再確認する機会となっています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	それぞれの生活記録に記入し、職員間で申し送りをを行い情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その人のニーズによって、外出に行ったり散歩に行ったり、お買い物に出掛ける等、支援している。また、ご家族様のご希望に答えられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会に参加し、草取りやゴミ当番などに参加している。 地域のお祭りやイベントに参加し地域の皆さんと一緒に楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご家族様に説明し、納得された後、施設の提携医院を主治医とし毎週木曜日に往診に来てもらっている。必要な時は電話にて助言・指示をもらい、検査などに付添い、適切な医療を受けられるよう努めている。	施設提携医の往診が週に一回あります。希望により提携医以外の医師を主治医とすることもできます。この場合受診は基本的にご家族が付き添われますが、困難な場合は施設職員が対応されています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が必要に応じて関わってくれている。 提携医院には、当施設の担当看護師がおり必要時には助言・指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医院との連携は十分に務めている。 他医院を定期的に医療処置を行っている方にも十分連携を図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期に入った場合、またその可能性がある場合は前もってご家族様のご希望・ご要望を伺い、それに沿った対応をしている。また、わずかな変化であってもご家族様に状況を報告している。	ご希望があれば、最後まで施設で看取りをされています。医療依存度が高い方には訪問看護と連携を行うなどの対応を行い実際に看取りを行ったケースがあります。ご希望を聞き取り、「できない」ではなく「できる」方策を考える方針を持たれています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的には行っていないが、外部の救急訓練に参加したり、その都度管理者からの指導を受けている。 研修については計画中である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に定期訓練を行っている。 地域との協力体制も確立しつつある。	火災時について避難されたご利用者の見守り等の協力を運営推進会議を利用し呼びかけを行っています。定期的に行う避難訓練に加え、日頃の生活の中で職員間やご利用者に「地震の時はどう対応する？」などの話を行うことで避難の意識化をされています。	避難先となる協力施設はありますが、実際に移動の訓練はされていません。今後訓練を行うことにより、緊急時には安全かつ円滑に行える体制が確立されることを期待致します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個人の尊厳を守る声掛け・対応を行えるようその都度、管理者が指導をしている。ミーティングの機会に事例を挙げて研修を行っている。	管理者が職員に対して、個々のご利用者に合わせて具体的な指示やアドバイスをされています。居室の入り口にカーテンを設置することでドアを開ける際廊下から直接部屋の中が見えないような工夫をされています。	1
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中でご希望を引き出したりまた、ご希望を言いやすいような言葉で行うように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースで日々毎日過ごしていただいている。 決して急がせることはしない。 ご本人様のご希望に添えるようにご希望を伺い外出・外食も計画している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回ずつ、理容・美容のボランティアの訪問がある。 髭剃りや髪の毛を整えるなどの声掛け・支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎週日曜日は順番にお好みの献立を伺い、一緒にお買い物に行き、一緒に調理をしている。	栄養士が作成したメニューを参考に、食材やご利用者の希望を反映して日々の献立を決め職員とご利用者が協力して調理をされています。週に一回はご利用の希望を順番に反映したメニューを提供されています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や、水分量は毎回チェックし、記録している。10時・15時のお茶の時間は、ご本人様のご希望を伺っている。 栄養士が作成した献立をもとに食事をお出ししている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は全員に声を掛け、口腔ケアを行っています。 自立の方は、声掛けはしますが、ご本人様のペースで行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、排便がいつからで ていないかの確認もおこなっており、腹部 マッサージをしたり、水分をとっていただ いたり自然排便が出来るように支援している。	必要に応じて下剤を使用しますが、自然排便 が出来るよう、運動やマッサージ、排便姿勢 の指導などの工夫をされています。また個々 に排泄のパターンや仕草を把握することで個別 に声掛けをされています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工 夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に 取り組んでいる	排便のチェックをしている。 水分を取っていただいたり、体操をしたり、 腹部マッサージを行うなどし、なるべく下剤 に頼らず自然排便が出来るよう支援してい る。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を 楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決 めてしまわずに、個々にそった支援をしている	声掛けはしているが、ご本人様のご希望を 伺いながら、入浴日・入浴時間を決めてい る。 就寝前に入りたい方もいらっしゃいますが、 それにも対応している。	浴槽は一般浴槽を使用し、手すりやシャワーチェ アなど介護機器の用意があります。週3回の入浴 回数を基本として希望に応じて毎日でも入浴が 出来る体制をとられています。ご利用者個別のシャ ンプーの用意や毛染めを行うこともあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じ て、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支 援している	生活パターンを把握し、個々の習慣に応じ て対応している。体調の変化にもすぐに気 付くよう観察し、安心して気持ちよく眠れるよう 支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用 法や用量について理解しており、服薬の支援と症 状の変化の確認に努めている	診断書・薬剤情報はスタッフがすぐに確認で きるように置いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一 人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来る事・出来そうな事を見つ けて日々の生活に生かせるように支援して いる。 ご自分の役割をもって意欲的に取り組んで いる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出か けられるよう支援に努めている。又、普段は行け ないような場所でも、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら出かけられるように 支援している	ご本人様のご希望を伺いながら、散歩・ドラ イブ・外食・花見等を支援している。 ホームの行事にはご家族様や地域の方々 にも参加していただいている。	天気の良い時は可能な限り戸外へ出かける よう心掛けられています。日常的には向かい のスーパーや近隣の遊歩道を散歩コースと されています。花見など施設の外出の際は 近隣の方やご家族が同行することもありま す。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お買い物の時に予算を説明して、その範囲内でお好きなものを選んで購入したり、外食したりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご希望があればその都度に応じています。先日も職員が見本を書き、利用者様自らペンを手に取り娘様宛にハガキを書きました。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花をいつもテーブルに飾っている。居室にこもりっぱなしにならないように声掛けをし、常に利用者様はホールに集まり、テレビをみたり・歌を歌ったり雑談したりされている。	施設の庭で花を栽培し、ご利用者と一緒にテーブルに飾る花を採りに出掛けます。テーブルの花はたやさないようにされ、ご利用者が水替えを担当されています。ご利用者は自然に共用のホールに集まり一日を過ごされています。職員は人間関係を把握し声掛けなどの対応をされています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールでの自席の配置に気を配り、気の合った利用者様同士で話しが出来たり、ぬり絵をしたりと過ごせるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室にも昔から使っていたタンスやテレビなどを配置している。食器も個々の物を使用している。	入居時にベッド、タンス、防災のカーテンをご利用者が準備します。また家具の持ち込みは制限なく自由となっています。ご利用者の身体状況に合わせた家具の配置を考えご利用者やご家族へ提案をされています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	それぞれの身体状況に対応した居室の配置としている。出来ることはやっていただき、立位が安全に自ら出来よう環境づくりにも工夫している。		